

令和 8 年用さといも・アスパラガス病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山野菜振興協議会

防 除 時 期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔収穫前使用日数／使用回数〕				注 意 事 項
植えつけ前	乾 腐 病	8F	本畑の土壌消毒。 バスアミド微粒剤 [㊦] 10 a 当たり 30kg〔植付21日前まで／ 1 回〕を均一に散布して土壌混和する。				
植えつけ時	アブラムシ類	4A	アドマイヤー 1 粒剤を10 a 当たり 4 kg〔植付時／ 1 回〕植溝土壌混和する。				
生 育 期	コガネムシ類幼虫	1A	オンコル粒剤 5 10 a 当たり 9 kg〔60日前まで／ 1 回〕土寄せ時に株元土壌混和する。				1. 合成ピレスロイド剤（トレボン乳剤、アディオン乳剤）は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。また、抵抗性害虫出現防止のため同一ほ場での総使用回数は 2 回以内とする。 2. トレボン乳剤は、葉柄を収穫する場合、収穫 7 日前までとする。 3. アディオン乳剤は、葉柄を収穫する場合（ずいきなど）、使用回数は 2 回以内とする。 4. オンコル粒剤 5、ウララ D F、プレオフロアブル、マイトコーネフロアブル、フェニックス顆粒水和剤、ディアナ S C は葉柄を収穫する場合（ずいきなど）は使用しない。
	ハスモンヨトウ	3A 28	トレボン乳剤 フェニックス顆粒水和剤	1,000 倍 2,000 倍	（10 <i>mℓ</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔14 日前まで／ 3 回以内〕 （ 5 <i>g</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔前日まで／ 2 回以内〕	のいずれかを発生初期に 10 a 当たり 100～300 <i>ℓ</i> 散布する。	
	スズメガ類	5 UN	ディアナ S C プレオフロアブル	2,500 倍 1,000 倍	（ 4 <i>mℓ</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔前日まで／ 2 回以内〕 （10 <i>mℓ</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔 7 日前まで／ 2 回以内〕	のいずれかを発生初期に 10 a 当たり 100～300 <i>ℓ</i> 散布する。	
	アブラムシ類	3A 29	アディオン乳剤 ウララ D F	3,000 倍 2,000 倍	（3.3 <i>mℓ</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔 7 日前まで／ 5 回以内〕 （ 5 <i>g</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔 7 日前まで／ 2 回以内〕	のいずれかを 10 a 当たり 100～300 <i>ℓ</i> 散布する。	
	ハダニ類	20D	マイトコーネフロアブル	1,000 倍	（10 <i>mℓ</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔 3 日前まで／ 1 回〕	を 10 a 当たり 100～300 <i>ℓ</i> 散布する。	
	カンザワハダニ	13	コテツフロアブル [㊦]	2,000 倍	（ 5 <i>mℓ</i> ／10 <i>ℓ</i> ）〔 7 日前まで／ 2 回以内〕	を 10 a 当たり 100～300 <i>ℓ</i> 散布する。	1. コテツフロアブル [㊦] は、ハスモンヨトウにも登録がある。 2. コテツフロアブル [㊦] は、葉柄を収穫する場合、収穫 3 日前までとする。

除草剤使用基準（葉柄収穫の場合は基準が異なる）

	薬 剤 名		RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	適用雑草	特 性
土 壌 処 理 剤	種芋もしくは は苗植付後	トレファノサイド乳剤	3	300 ～ 400 <i>mℓ</i> ／ 100 <i>ℓ</i>	植付後（但し植付 7 日後まで）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
		トレファノサイド粒剤 2.5		4 ～ 6 kg	植付後（但し植付 7 日後まで）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。 （下記※注意事項参照）
	種芋植付後	ゴーゴーサン細粒剤 F	3	4 ～ 6 kg	植付後萌芽前（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツユクサ、キク科雑草には効果が劣る。
		ゴーゴーサン乳剤		200 ～ 400 <i>mℓ</i> ／ 70 ～ 100 <i>ℓ</i>	植付後萌芽前（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツユクサ、キク科雑草には効果が劣る。
茎 葉 処 理 剤	バスタ液剤		10	300 ～ 500 <i>mℓ</i> ／ 100 ～ 150 <i>ℓ</i>	雑草生育期：植付前又は畦間処理（収穫 30 日前まで）	雑草茎葉散布	3 回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。
	ナブ乳剤		1	150 ～ 200 <i>mℓ</i> ／ 100 ～ 150 <i>ℓ</i>	雑草生育期（イネ科雑草 3 ～ 5 葉期）（収穫 30 日前まで）	雑草茎葉散布	1 回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで 7 ～ 10 日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。

【葉柄を収穫する場合】トレファノサイド粒剤 2.5 植付後（マルチ前）（但し植付 7 日後まで）
バスタ液剤 雑草生育期：植付前又は畦間処理（収穫 7 日前まで）

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成 分 名	農 薬 名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数	成 分 名	農 薬 名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数
トリフルラリン	トレファノサイド乳剤	3	1 回	1 回	ベンディメタリン	ゴーゴーサン細粒剤 F	3	1 回	2 回以内 （但し、土寄せ後の 処理は 1 回以内）
	トレファノサイド粒剤 2.5		1 回			ゴーゴーサン乳剤		1 回	

アスパラガス

防 除 時 期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔収穫前使用日数／使用回数〕				注 意 事 項	
生 育 期	立 枯 病	3	トリフミン水和剤	1,000倍	(10 g／10 ℓ)	〔7 日前まで／1 回〕	を 1 m 当たり 3 ℓ かん注処理する。	1. E B I 剤（トリフミン水和剤、ラリー水和剤）は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は 2 回以内とする。 2. アミスター20フロアブルは、展着剤の種類によって薬害の恐れがあるので加用しない。また、りんごに薬害を生じるため飛散しないように注意する。 3. アミスター20フロアブルは、耐性菌出現防止のため、連用は避け、総使用回数は 2 回以内とする。 4. 茎枯病、斑点病には、Z ボルドー500倍 (20 g／10 ℓ)〔－／－〕を使用してよい。 5. Z ボルドーは、水稻（穂ばらみ期～出穂期）に薬害が出るので飛散しないように注意する。 6. 春どり栽培では、収穫打切り直後穂先が開かない時から散布を開始し、梅雨期間中の防除を徹底する。 7. 枯死茎葉は刈り取り、ほ場に残さず適切に処分する。
	斑 点 病	3	ラリー水和剤	4,000倍	(2.5 g／10 ℓ)	〔前日まで／2 回以内〕	を 10 a 当たり 150～300 ℓ 散布する。	
	茎 斑 点 病 病 斑 病	M1	コサイド3000	2,000倍	(5 g／10 ℓ)	〔－／－〕	のいずれかを 10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。	
		M5	ダコニール1000	1,000倍	(10mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／4 回以内〕		
		M7	ベルクート水和剤	1,000倍	(10 g／10 ℓ)	〔7 日前まで／5 回以内〕		
		11	アミスター20フロアブル	2,000倍	(5 mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／4 回以内〕		
	茎 枯 病	M1	クプロシールド	1,000倍	(10mℓ／10 ℓ)	〔発病前～発病初期／－〕	を 10 a 当たり 100～400 ℓ 散布する。	
		1	ベンレート水和剤	2,000倍	(5 g／10 ℓ)	〔前日まで／4 回以内〕		
		2	ロブラール水和剤	2,000倍	(5 g／10 ℓ)	〔前日まで／5 回以内〕		
		7	アフエットフロアブル	2,000倍	(5 mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／4 回以内〕		
	ネギアザミウマ (アザミウマ類)	5	ディアナ S C	2,500倍	(4 mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／2 回以内〕	を 10 a 当たり 100～500 ℓ 散布する。	1. ディアナ S C は、アザミウマ類として登録があるほか、コナジラミ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガにも登録がある。
		34	ファインセーブフロアブル [㊦]	2,000倍	(5 mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／2 回以内〕	を 10 a 当たり 100～800 ℓ 散布する。	
	カ メ ム シ 類	4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	(5 g／10 ℓ)	〔前日まで／3 回以内〕	を 10 a 当たり 100～800 ℓ 散布する。	1. スタークル顆粒水溶剤は、アザミウマ類にも登録がある。
	ジュウシホシクビナガハムシ アブラムシ類	3A	アディオン乳剤	2,000倍	(5 mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／3 回以内〕	のいずれかを 10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。	1. アディオン乳剤は、ヨトウムシ、カメムシ類にも登録がある。 2. モスピラン顆粒水溶剤 [㊦] はアザミウマ類、コナジラミ類にも登録がある。 3. アディオン乳剤は蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。
		4A	モスピラン顆粒水溶剤 [㊦]	4,000倍	(2.5 g／10 ℓ)	〔前日まで／2 回以内〕		
	ハスモンヨトウ (オオタバコガ)	UN	プレオフロアブル	1,000倍	(10mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／2 回以内〕	のいずれかを 10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。	4. フェニックス顆粒水和剤は、ヨトウムシにも登録がある。 5. グレーシア乳剤は、アザミウマ類、ジュウシホシクビナガハムシ、ハダニ類にも登録がある。
		28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	(5 g／10 ℓ)	〔前日まで／2 回以内〕		
		30	グレーシア乳剤	2,000倍	(5 mℓ／10 ℓ)	〔前日まで／2 回以内〕		

除草剤使用基準

※センコル水和剤は使用方法が変わったので、特性をよく読んで使用する。

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	適用雑草	特 性
土 壌 処 理 剤	クレマート乳剤	3	200 ～ 400 <i>mℓ</i> ／ 100 ～ 150 <i>ℓ</i>	萌芽前（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ガス化しないので、ハウス栽培、マルチ栽培で使用できる。
	トレファノサイド乳剤	3	200 ～ 300 <i>mℓ</i> ／ 100 <i>ℓ</i>	萌芽前または収穫打切後（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。 ・トンネル・ハウス栽培ではガス化による薬害による恐れがあるので使用しない。
	ロロックス	5	150 ～ 200 <i>g</i> ／ 70 ～ 150 <i>ℓ</i>	萌芽前（雑草発生前～発生始期）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・広葉雑草に効果が高い。 ・砂質土壌では使用しない。
茎 葉 処 理 剤	センコル水和剤	5	100 ～ 150 <i>g</i> ／ 100 <i>ℓ</i>	萌芽前～萌芽始期または収穫打切後（雑草発生前～ 4.5 葉期）	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・促成栽培の場合は株堀り取り終了後のみの使用とする。 ・擬葉にかかると葉先枯などの薬害を生じるので注意する。
	ナブ乳剤	1	150 ～ 200 <i>mℓ</i> ／ 100 ～ 150 <i>ℓ</i>	雑草生育期（イネ科雑草 3 ～ 5 葉期）（収穫前日まで）	雑草茎葉散布 又は全面散布	1 回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで 7 ～ 10 日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300 ～ 500 <i>mℓ</i> ／ 100 ～ 150 <i>ℓ</i>	雑草生育期：萌芽前または畦間処理（収穫前日まで）	雑草茎葉散布	2 回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。 ・散布後 6 時間以内の降雨で効果が低下するので注意する。
	ザクサ液剤	10	300 ～ 500 <i>mℓ</i> ／ 100 ～ 150 <i>ℓ</i>	雑草生育期：萌芽前または畦間処理（収穫前日まで）	雑草茎葉散布	2 回以内	一年生雑草	・非選択性
	ラウンドアップ マックスロード	9	200 ～ 500 <i>mℓ</i> ／ 50 ～ 100 <i>ℓ</i>	雑草生育期（耕起前まで）	雑草茎葉散布	1 回	一年生雑草	・少量散布の場合は 10 a 当たりの散布量を 25 ～ 50 <i>ℓ</i> とする。 ・吸収移行型除草剤 ・茎葉刈り取り後、越冬雑草に処理しておくとも効果が高い。
			1,500 ～ 2,000 <i>mℓ</i> ／ 50 ～ 100 <i>ℓ</i>	雑草生育期：畦間処理（収穫前日まで）	雑草茎葉散布	2 回以内	スギナ	

成 分 名	農 薬 名	使 用 回 数	同一成分総使用回数
グルホシネート及び グルホシネート P ナトリウム塩	バスタ液剤	2 回以内	2 回以内
	ザクサ液剤	2 回以内	